

(行方市)なめがた市民 100 人委員会「第1回委員会」議事メモ

分科会	第2分科会(健康で文化的なまちプロジェクト)
コーディネーター	石井 聡(逗子市市民協働部次長兼市民協働課長)
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	企画政策課 1名
日時	2020年9月26日(土) 15時10分から16時10分
場所	レイクエコー 講座室1
その他	参加者数 全体会 9(分科会 8)名 欠席者数 全 7(分 8)名

趣旨・概要

- ・導入(進め方)
- ・自己紹介
- ・テーマについて思うこと(論点整理)
- ・まとめ(次回に向けて)

総括

分科会 会長総括

- なし

コーディネーター総括

- なし

協議の流れ

1 導入(進め方)

- ・テーマに縛られない…関連があれば脱線 OK。
- ・欠席 OK…もし欠席しても次回出席して大丈夫。
- ・多様な意見、アイデアを集める場…1 回にひとつ話すことにする。
何度でも発言してほしい。

2 自己紹介

- ・氏名、住んでいる地域、何をしているか(所属)、
テーマ「健康で文化的なまち」について一言

3 テーマ「健康で文化的なまち」について思うこと(論点出し)

テーマ:病気になったらどこに搬送されるのか。市外の可能性も。

コ) 全体会でアンケートの紹介があったが、病院が小さくなったことへの不満はどうか。

委) 持病がある人や高齢者は切実。委員は割と若いのでそうでもないのかもしれない。

委) 交通の便が悪い。遠くなってしまっている。

市) 行方市のワンコインの乗り合いタクシーの利用者の半分は病院に行っている。市外には行けない。朝の利用には前日までに予約が必要で、午後であれば当日予約も可能であると思う。

委) 実は義理の母が倒れて自宅とショートステイで介護している。なめがた地域総合病院(以降「なめ総」)の眼科が一時なくなりその時には土浦に行ったりしていた。ほかには石岡の病院など元々他市の病院に救急搬送されることが多かった。

委) 救急も担当医がいないと受けられないようだ。

コ) 次回に向けて救急搬送先がどこの病院なのかわかれば話しやすいか。救急搬送先決定のシステムがわかるといいか。現実の搬送データがあると具体的な話ができるかもしれない。私は医療関係の仕事をしたことはない。逗子市は人口 6 万人の市だが病院はない。過去 20 年で 4 回病院誘致を失敗している。採算性では 100~200 床でも足りないよ

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

うだ。医療従事者が不足し、医師の引き抜きがあると近隣病院も困ってしまう。逗子市から他市に運ぶため搬送は 40 分以上かかるようだ。

テーマ：医療機関の充実度は住居選択理由の1つになりうるのではないか。

コ) 産婦人科や子ども向けの病院の話はあるか。

委) 子どもが具合悪くなるのは夜が多い。子どもが小さい頃市外に住んでいて県の救急相談窓口で電話した。当時市外からなめ総に運んだ記憶がある。今の状況では、小さい子どもの夜間外来は市内では難しい。これから住む場所を検討するのであれば自分で子どもを運べる病院があるまちを選ぶこともあると思う。

テーマ：なめ総の医師不足、高齢化。今後の病院の方向はどうなるのか。

委) なめ総が中心的なところだと思う。どこの病院もそうだが、ここは特に医師が足りない。眼科も最近再開したが、医師の高齢化も進んでいる。若いフレッシュな医師がいない。1人の医師と助勤(常勤ではない医師)が交替で科を開いている。医師も高齢化しているのが夜間働くのも難しいと思う。

小児科は長くいた医師がいなくなったが、常勤は一人維持している。救急外来を診ないのは専門外を診られないからだと思う。専門的な病気は結局紹介になるので、先に専門病院に行ったほうが場合によってはいいこともある。今後より縮小化されるのではないか。

委) 今の病床は 50 くらいだと思うが、来年 100 床くらいに増やすという噂を聞いた。誰かなめ総の今後の計画はわからないか。

市) 専門外なので細かく情報は把握できていないが、市長が近隣病院や都内の大学病院にお願いをしていると聞いている。市では健康増進課などの保健福祉部で担当している。具体的な話は次回までに確認する。

コ) 次回に向けてこの二次医療圏程度のデータをいただきたい。病院の設置等は基本的に県が国の基準で決定している。勝手に病院を建てられない。もちろん予算の関係もある。

コ) 医師の高齢化の話が出ている。今の年齢から残り働く期間も決まるのではないか。厳しい環境であるといえる。

テーマ：交通の便を良くして広域的に考えることも一手ではないか。

委) 自力で行動できる人は土浦や鹿島線で水戸まで行くのも手ではないか。交通網があれば移動できる年代の医療を確保できると考えられるのではないか。動くことで地域振興や高齢者の活力にもなるのではないか。今は鹿島線の駅まで公共交通機関で行けない。以前はバスがあったが、今はない。水戸駅に 7 時に着きたいが、朝バスが走っていない。運行は日常のレジャーに特化した時間が多い。レイクエコーから鹿島駅には出ているが、ここまでは自宅から 2km 歩く必要がある。市外の医療機関などの目的地までの移動を考えた公共交通網の整備が必要ではないか。1日に1本でも早い時間の公共交通があれば自力で行動できる準高齢者もいると思う。インフラの整備も必要になると思う。

コ) 通常の路線バスは仮にあったとしても地域の人足になっていないのか。

委) 日常時間の運行なので、なめ総であれば足になるが、市外などの広域で考えると足になりえないと思う。

コ) このように交通網の解決という面もあると思う。

テーマ：未来を考えるには過去、現在を知る必要があるのではないか。

委) そもそもより良くすることがゴールだと思う。今の戦略があって、今のままでいいかチェックをするのか。元々の戦略の成果目標の実現は難しいのではないか。市の成果目標の意図を知らないといけないと思う。それぞれの項目についてインプットしたい。目標を掲げた項目の意図、実現可能性、無理であればどういうやり方がいいのか。という資料があるといいと思う。

コ) 報告書案がある程度のデータになると思うが、全体像かというところ…。

委) 数字だけなのでなかなか入ってこない。理想と現実を精査したい。そもそも実現不可能で

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

あればゼロベースで新しいことを考える必要があると思う。

- コ) 次回の説明項目にしたいと思う。いくつかに絞った形で市にお願いしたいと思う。
例えば、行方市民は健康か?という質問に対して、しっかり答えられるデータがあるというと思う。運動不足という事例でいえば、例えば週に1回以上運動する 40 代男性、女性の割合が全国平均と比較するなどしてもよいと思う。
- 委) 厚労省の基準など何か比較できるのではないか。
- コ) 車社会なので日常的に歩く人の割合は例えば東京の世田谷区から比べると低いかもしれない。歩かないことで BMI に影響している、実は他市よりも野菜を食べる人の割合が高いので健康である。など何かデータをもって話せるといいと思う。

4 分科会長、副分科会長の決定

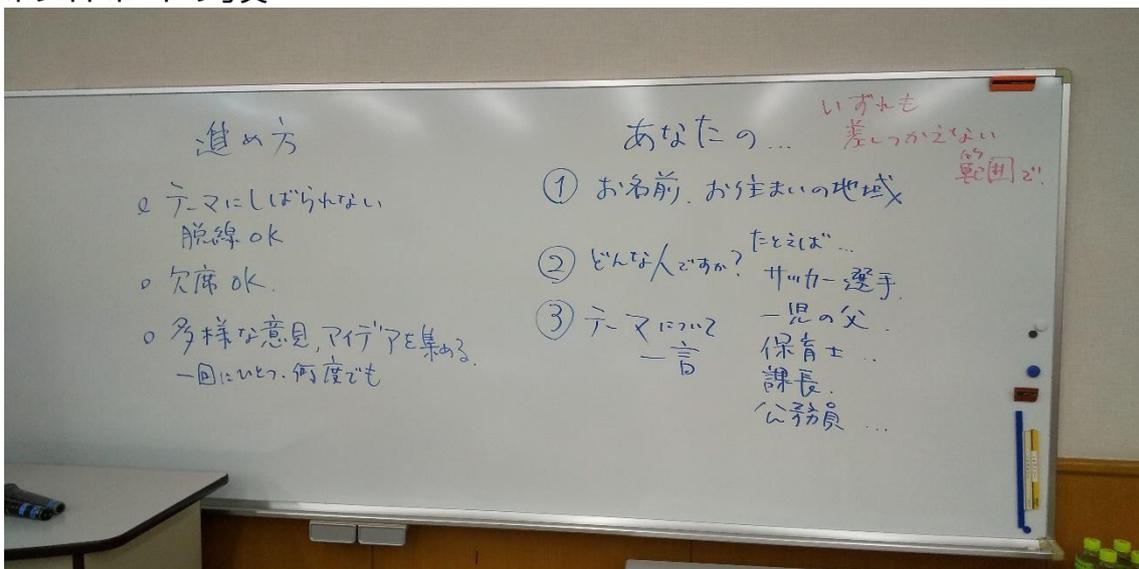
先送りする。第2回から来る人がいるかもしれないので次回決める。

第2回に決めてもまだ幹事会に間に合う。平日の幹事会が厳しいという声があったことは事務局に伝える。

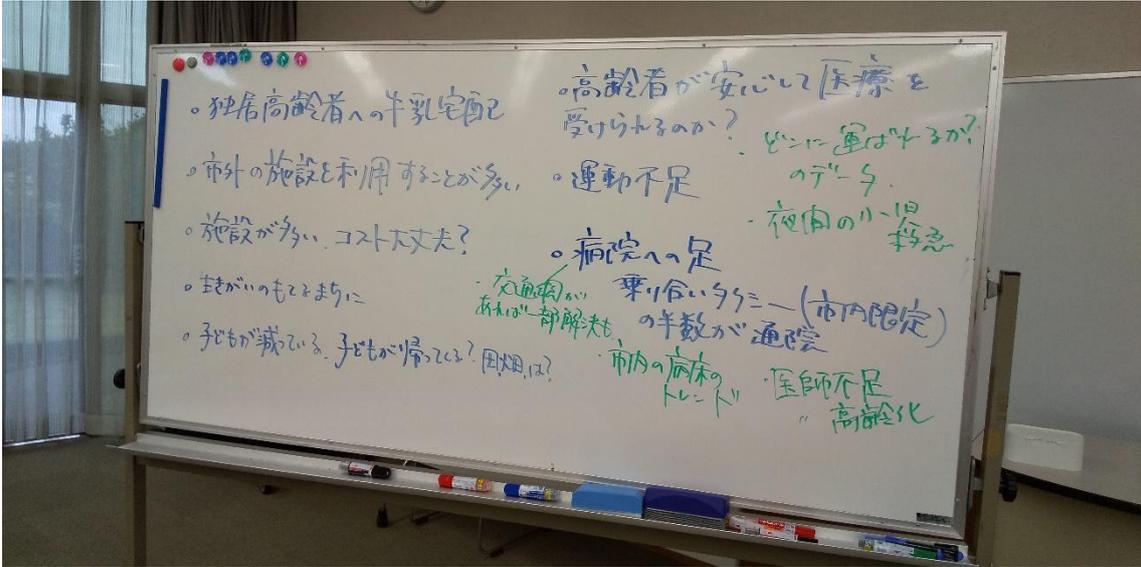
5 質問・意見等

特になし。

ホワイトボードの写真



委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者



委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者